

株式会社 清水

昭和24年の創業以来、一般鋼材・特殊鋼の加工販売を軸に事業を展開。鋸切断、シャーリング、ガス溶断、曲げ、穴明け、切削、研磨、開先取り、ショットブラスト・レーザー切断等加工部門を順次増強。さらに新素材の研究にも意欲的に取り組み、付加価値の高い二次・三次加工でのノウハウと技術力を生かして、高精度の機械用材・建設用材を取り扱っている。



当社の 強み・特徴

鋼材加工メーカーとしての技術総合力、鋼材商社としての販売力を兼ね備えている。また、ユーザー企業が行っている材料手配・自社加工・外注加工管理などを一括受注して、ユーザー企業の工程管理、外注管理、配送等のマテリアルハンドリングを軽減し、コストダウンに貢献できる「ワンストップショップ構想」を推進している。

事業計画名 ▶ 締結用部品加工の高度化

生産工程の自動化を推進し、コスト削減を 図るためにショットブラスト機等を導入

【計画の概要】 現状の建築用スプライスプレートの穴あけ加工では、人手の負担が大きく、全自動オートドリルマシン・バリ取り機・ショットブラスト機の導入により、夜間操業も可能となる作業工程ラインの自動化を進め、生産プロセスの強化と生産性向上を図る。

本事業の取組内容・概要

●設備導入のきっかけ

▶ 建築基準法の改正により建物の強度が求められ、建築材料の品質もより高い欲求となった。

■現状

▶ H型鋼の接合に必要なスプライスプレートの穴あけのバリ取りを手作業で行い、時間とコストがかかっていた。

■設備導入の期待

- ▶ 生産可能量の増加により、大口の引き合いに対しても対応が可能。
- ▶ 自動化でのコスト削減により、価格競争力が強化。
- ▶ 人手から機械化による品質の安定化。



▲プレシェーバー（バリ取り機）とショットブラスト機をライン化

●導入設備

機械装置名	利用方法
フルオートボーラー	大容量である点も利用して、穴あけ機として、夜間や休日にも有効に活用
プレシェーバー	ショット機の前工程の機械をライン化し、手作業の削減と工数の削減に活用
ショットブラスト	バリ取り機とライン化することで手作業の削減と工数の削減に活用



▲手作業でのバリ取りは時間とコストがかかっていた

企業DATA

- 事業者名 株式会社 清水
- 代表者名 代表取締役 清水 昭生
- 設立年月日 昭和33年6月23日
- 所在地 〒680-0921 鳥取県鳥取市古海542-1
Tel.0857-23-1631 Fax.0857-23-0999
URL : <http://www.simiz-corp.com/> E-mail : mail@simiz-corp.com
- 資本金 50,000千円
- 従業員数 93名(平成27年7月末時点)
- 業務内容 (鉄鋼業)一般鋼材、特殊鋼、鋼管、非鉄の卸販売及び金属加工
(シャーリング加工、レーザー・プラズマ・ガス溶断加工、鋸切断、穴あけ、プレス曲げ加工、開先加工、切削加工、ロータリー研磨加工、マシニング加工、ショット加工)、不動産の賃貸業務



代表取締役 清水 昭生

本事業の成果

●事業の概要とその成果

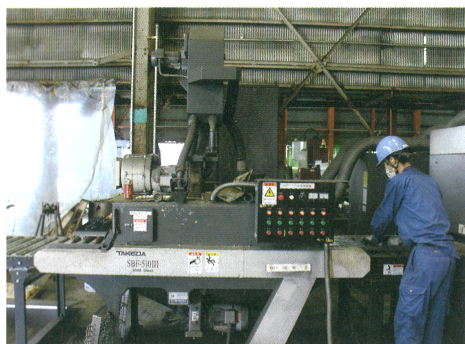
建築用スプライスプレートの穴あけ、バリ取り、ショット加工について、機械化、一部ライン化、無人作業の大容量化により、生産プロセスの強化と生産性向上を図ることができ、部署の時間当たり生産量も増やすことができた。

▶機械化とライン化

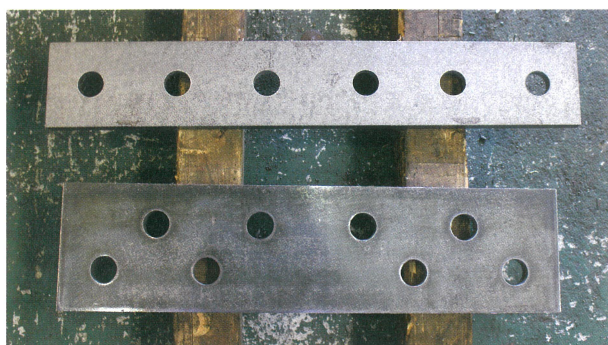
従来の人手によるグラインダー作業を機械化し、同時にショットブラスト加工設備とライン化。

▶無人作業の大容量化

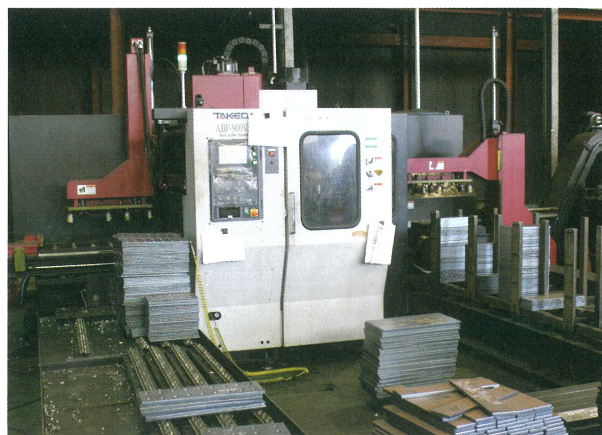
穴あけ機のストック量が従来の3倍を超え、無人運転可能な時間が大幅に延長。



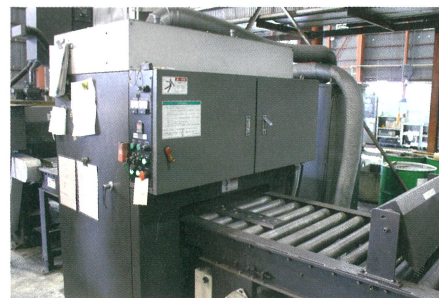
▲黒サビを落とすショットブラスト機



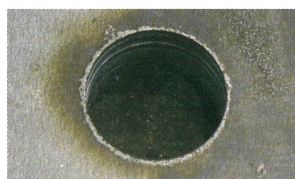
▲上はショットブラスト加工後、下は加工前の商品



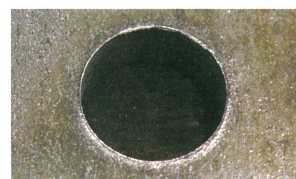
▲フルオートボーラー(全自動オートドリルマシン)のストック量を従来の3倍に



▶プレシェーパー(バリ取り機)の導入により生産性が向上



▲プレシェーパー使用前



▲プレシェーパー使用後

今後の展開と展望

○売上増加

夜間作業が可能となり、大口の引き合いにも対応でき、売上増加につながる。

○コストダウンによる競争力強化

生産工程の自動化により大幅な人手作業のコスト削減が可能となり、他社との競争力が強化できる。